

## 中心市街地活性化について



織笠 孝之 議員

【質問】「まち場」は行政、産業、文化の中心である。

まちの魅力の低下を招いている空洞化という状況を、どのような施策で何年かけて整備をするのか。

〔市長〕現在計画中の「中心市街地活性化基本計画」は、人口減少、少子高齢化、財政逼迫の中で、市民が満足して誇れるまちとして、歴史や文化、生活等コミュニティと商業等経済面での活性化を図る計画である。整備計画は5年間の予定である。

【質問】駅北側のまちなか居住や子育て環境に配慮した市営住宅を何戸整備し、居住人口をどの位見込むのか。

〔市長〕まちなか居住を進める材木町市営住宅の整備を平成20年度は12戸予定している。まちなか居住人口は、平均家族を3人位として、36名から50名以下と見込んでいる。

【質問】中学校再編検討委員会のあり方と市民理解は。

〔教育長〕中学校再編成検討委員会は、PTA・区長会や地連協の代表者と関係機関団体等27名の委員で構成している。学校数、学区設定、校舎設置位置、校名、再編成時期について懇談会の意見を提示しながら、現在は3校案4パターンで校舎設置位置について検討。委員会の答申を踏まえ、議論を積み重ねながら市民の方々の理解をいただき、20年度末を目標に取り組む。

【質問】総合食育センター構想のPFI方式について十分な調査をしているのか。また、食材供給組合を組織し、地産地消の食材使用割合と食の安全を考えた取り組みをすることが大事ではないか。

〔教育長〕民間資金と経営能力・技術力を活用し、施設の整備・運営を図るPFI方式の導入が可能か調査した。

学校給食における食の安全確保は子供たちの健康保護が最も重要である。地元農産物生産者と理解を深め、地産地消と消費拡大を図る。

## 有機農業による儲かる農業は



荒川 栄悦 議員

【質問】JA合併によるアストの活動への影響は。

〔市長〕JA遠野の合併は時代の流れであり、県内六農協体制という県農協中央会の方針に沿った再編と認識している。特にJA遠野の場合は多額の負債整理ということで、出資金の60%減資という大きな犠牲を払ったことによる当市への影響を考えるべきと思う。そこで合併後におけるJAの動向を確認のうえ、アストの活動に支障をきたさないよう対応していく。

また、農協合併課題調査支援本部では、今後合併による市民生活や農業振興に及ぼす影響等を調査分析し、必要な対応策を検討する。

【質問】付加価値の高い儲かる農業としての有機農業への取り組みと推進は。

〔市長〕有機農業推進への取り組みは、農家の労力不足、機械化対策等で容易に対応し難い面もあり、市全体で取り組むことは困難と考える。しかし反面、多様な需要に応えるための必要な品目もあると考える。集落での取り組みの中で、栽培品目によって有機栽培への提案をしながら、有利販売に結びつくように展開していく。そこで、今般提案する新年度予算の中に、こだわり農産物栽培支援事業として予算措置しており、積極的に支援していく。

【質問】中学校再編成を急ぐ必要はないと思うが。現在の中学校の実態である、小規模校による少人数学級教育が可能ではないか。

〔教育長〕現在行われている小規模校、少人数学級による教育は総じて良好に運営されていると認識している。しかし、生徒の能力を引き出すには、この状態では大きな課題を抱えている。生徒の減少による小規模校化がそれである。中学生という重要な成長段階において、社会で協調しながらたくましく生き抜き、自立できる人材を育てるには、ある程度の学校規模を確保することが必要である。

【その他の質問】・鹿の駆除、対策は。



▲期待される駅前開発